

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	
2005/10/27	50142	B型肝炎	Transfusion 2005;45	プール血漿に対するNAT検査の有用性について。FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検出法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対効果もわずかであり、「NATの実施は現時点ではミニプール及び個別ドナーに対して任意で実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。	6
2005/9/22	50104	B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。	
2005/9/26	50109	C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。	
2005/9/26	50109	C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある日本の事例。	
2005/9/22	50104	C型肝炎	J Med Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。	
2005/9/22	50104	C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物感染実験が進行中である。	7
2005/10/27	50142	C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は、1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ない。	
2005/9/22	50104	C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。	
2005/9/22	50104	C型肝炎	J Med Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。	8
2005/9/22	50104	C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらず患者が輸血するような場合にはC型肝炎について院内リスクがあることが示唆される。	9
2005/11/28	50178	C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月～4月にかけてベインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。	
2005/11/28	50178	C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCV感染の傾向感染経路を考察する必要がある。	10